

中谷伸生氏を悼む

公益財団法人
きょうと視覚文化振興財団
理事長 岩城見一

2024年11月29日、弊財団の理事・中谷伸生氏が永眠されました（享年75）。中谷伸生氏は、2019年11月1日の弊財団創立時から、理事として積極的に活動されてきました。2019年といえば、中谷氏は、2017年に関西大学文学部（美学美術史専修からアジア文化専修へ移籍）を定年退職後、名誉教授また特別契約教授（2020年まで）として、後進の指導にも当たっておられた時期でした。その後、氏のライフワークのひとつである大坂画壇の再評価を目指して、京都国立近代美術館・読売新聞社主催（弊財団協賛）「サロン！ 雅と俗 京の大家と知られざる大坂画壇」展の実現に協力され、2022年3月23日から5月8日まで開催されることとなりました。大英博物館との緊密な連携のもとで、実に力のこもった展示が行われ、また、大部の図録が作成されたこの展覧会は、それまで十分には注目されてこなかった大坂画壇を知るうえでの画期的な展覧会になりました。この展覧会は、中谷氏が長年続けてこられた大坂画壇に関する研究をまとめられた大著を主な拠り所として企画された点で、氏にとっても感慨深いものだったと想像しています。これを機に、今後いつそ氏ご自身の研究も深まることが期待されるという時に、思いがけなく亡くなられ、私たちにとって残念であるばかりか、ご自身にとってもさぞ心残りであったろうと思います。

中谷氏は、また、故原田平作理事長（1933-2023）とともに、長年、学術誌『美術フォーラム 21』の編集に尽力されるとともに、財団共催の展覧会を2つ企画され、図録を編集されました。ひとつは、2023年3月25日から2023年10月9日まで全国5館を巡回した「美術と風土ーアーティストが触れた伊那谷」展、もうひとつは、2023年10月28日から2024年9月8日まで全国5館を巡回した「生誕130年・没後60年を越えて須田国太郎ー3つのまなざし」展です。特に後者の須田巡回展は、従来にないユニークな視点で須田国太郎の業績を回顧するものとなりました。

中谷氏は昨年9月にコロナに罹患されましたが、70日間の入院生活を経て生還され、しばらくのリハビリの後、碧南市藤井達吉現代美術館を訪問され、ご自身の眼で展示をご覧になりました。これもまた、「展覧会の歓び」を共有する財団関係者にとって、せめてもの慰めです。氏が続けてこられた深く、また興味深いご研究、展覧会企画、運営、図録編集、そのための多くの方々との間に築かれた温かい関係、そのような経験に基づいた財団運営へのご尽力、これらすべてのことに対して、私たち財団一同、深甚なる敬意と謝意を表し、心よりご冥福をお祈りします。（2024年12月10日記す）。